

このたび当組合ではサイトにおいでくださる皆様に向けて様々な情報やお知らせを定期的に発信するためにweb版のかわら版を作ることになりました。

そのようなわけで記念すべき創刊号は先日高知で行われた作業道研修会についてお伝えいたします。私たちが訪ねたのは、かの「四万十式作業道」で有名な高知県四万十町役場の田邊由喜男氏です。田邊氏は



かるく40度を超える急な山です

は林業政策監 兼 林業振興室長という肩書をお持ちではありませんがひとたびツナギに着替えると気さくなおじさんに変身です。冗談はさておき研修会の内容ですが、初日に予定されていた半日の講義は1時間ほどで切り上げてすぐに現場へ移動。用意されていた研修地は手をつかないと上り下りできないような急斜面でした。ふつうはこんな斜面に切り盛りだけで道をつけるなんてにわかには信じがたいですが、途中までは前回の研修で開けられた道がすでについています。使用する重機はバケット容量0.2m³・重量5tクラスの小旋回型バックホウです。開設方法は

文章では説明しにくいのですが、表土をすくいながら地山の土と交互に路肩部分に水平に重ねてゆきます。

切り株があればそのまま引っこ抜いて法面に並べてしまいます。

施工後の法面は有機物で覆われており、時間がたてば植生が回復して法面が保護されます。このように盛土をしっかりさせる

ことで山側の切り取りを小さくすることができるので残土が発生

することもなく、したがって残土の搬出なんて面倒な作業もあり

ません。田邊氏のお手本に従っておっかなびっくり重機を操作

しますが、なかなか思い通りに進みません。途中何度も手直し

を受けながら何とかまともな作業道に仕上がりました。(仕上げ

ていただきました)このような作業道を高密度に整備することで



すくっては盛り、すくっては盛り

いままで搬出できなかった間伐材を搬出して利用することができ

るようになります。切り取りの幅も小さくできるので山に与えるイ

ンパクトも小さくすることができます。また、四万十式の極意は単

純に道の開け方だけではなくどこにどのように道を開ければよい

かの見極めでもあり、まだまだ勉強が必要だと思い知らされました。

今回研修で学んだことを自分たちなりにアレンジしながら実践に移りたいと思います。ちょっと専門的な内容になりましたが、

いかがだったでしょうか。



きれいにできました